

主論文の要約

論文題目：アイスランドにおける中国系移民コミュニティの形成と発展—新しい経済活動によるネットワークの変遷に着目して—

氏名：金京

論文内容の要約：

本論文は、1980年代から今日に至るまでのアイスランドにおける中国系移民コミュニティの形成および変遷を明らかにし、そのコミュニティが観光業という新たな経済活動により如何に再編したのかを解明したものである。

アイスランドにおける中国系移民は少人数であるため、ヨーロッパの中国系移民研究においてほとんど注目されてこなかったが、しかし、ここ数十年の観光立国を目指すアイスランドには、経済の変化が見られ、中国とアイスランドの間の社会的・人的な交流は、アイスランドを訪問する中国人観光客が大幅に増加したことを原因として、大きく発展してきた。このような背景の下、中国系移民はアイスランドの観光市場で積極的に活躍し始め、中国とアイスランドの架け橋のような存在となり、重要な役割を果たしはじめた。そのため、中国系移民コミュニティの実態を解明することには、大きな意義があると考えられる。本論文ではエスノグラフィという文化人類学的方法論を用いて、インタビュー調査で収集したデータの分析を通じて、彼らの移住史や移住の経緯、ネットワークの展開、就労状況などを分析した。

論文は序章と終章を併せて五つの章から構成されている。序章では、研究背景、先行研究、研究目的と研究方法について述べ、アイスランドにおける中国系移民へのアプローチの重要性を示した。第一章では、1980年代末から2019年に至るアイスランドにおける中国系移民の移住史を大きく二つの時期に分けて概観し、在留中国系移民の多様な構成員の移住パターンについて明らかにした。1980年代から2000年代半ばまでの第一期の中国系移民は、主にスポーツコーチや留学生、移民ネットワークを生かして移住してきたその親戚であった。スポーツコーチと公費留学生は、改革開放をきっかけに海外との交流を深めるための中国の体育外交や公費留学生派遣などの政策の恩恵を受けて、アイスランドへ派遣され、長期的に滞在してから定住してきた。1990年代後半から2000年代半ばまでは、アイスランドの移民政策は外国人の流入に対して寛容で、さらに、労働市場において外国人労働者への需要が生じていた。中国系移民は、その状況を利用し、社会的にネットワークを活かして就労機会をはじめとする多様なサポートを受けて継続的に移住した。このように第一期の中国系移民は、多様な出身地や職業の定住者がおり、同じ出身地からの家族や親族・友人の呼びよせがあった。

2000年代半ばから現在に至るまでの第二期には、主に国際結婚をした女性、留学生、就労を求めた中華レストランのコックが増加してきた。アイスランドは、2000年代半ばからヨーロッパ諸国の間の人々の移動を優先し、EEA協定やシェンゲン協定などの影響を受けて、

中国系移民を含めた非 EEA 系移民の移住を制限するようになった。その結果、就労目的で移住しようとする中国系移民の渡航は困難になり、留学と国際結婚が最も容易な移住パターンになった。この期の留学生は、アイスランドのことを知らずに留学先としてアイスランドの大学を選択した初期の留学生とは異なり、「学費」や「専門」、「ネットワーク」などの多様な要因を検討してからアイスランドへの留学を決定するようになった。アイスランドを最初の目的地とする留学生も増えてきたのである。結婚移住者には、アイスランド人男性と知り合って結婚した女性や国際婚姻ウェブサイトを通じて知り合って結婚した女性などがいるが、「家族合流」という資格を取得してアイスランドに渡ることが可能であるため、重要な移住パターンとなった。一方、就労者としては、中国からの低熟練労働者の移動が制限されている中、中華レストランのコックは技術者としてアイスランドへ移住することができている。これらのコックたちの中では何年か経つと、より良い条件を求めて他国へ再移動する者もあり、コックという職業には流動性が見られる。その流動性によって新しいコックの雇用が可能になり、少人数ではあるが中国人就労者の移住は続いている。このように中国系移民は、移民ネットワークを持たずに移住した異なる出身地や学歴、職業などを持つ人々であり、彼らの増加は移民集団内部の構成員を一層多様化していった。第二章では、アイスランドにおける中国系移民が、定住してからどのように共同活動を通じてエスニック・ネットワークを構築してエスニックな連帯を強化し、コミュニティを形成していったのかを明らかにした。アイスランドでは中国系移民は 1980 年代末から、アイスランド社会の友好的で快適な環境に引きつけられた数十名の中国系移民の長期滞在が見られるようになった。彼らは 1995 年に「アイスランド華人華僑協会」を設立し、初の組織を通じて共同活動を行い始めた。組織の設立当初、在留中国人はスポーツコーチや留学生、彼らの家族などであり、ほぼ全員が組織の活動に参加していた。この組織は、中国語教室を開設し、中国語雑誌を刊行し、日頃の集まりなどの様々な文化的な活動を通じて移民同士のネットワークを築いた。

しかし、2000 年代半ばからは、アイスランドの移民政策は非 EEA 系移民の就労者の移住を制限するようになった。その影響を受けて中国系移民の移住パターンは変化し、移民ネットワークを持たずにアイスランドへ渡る留学生や結婚移民女性、中華レストランのコックなどが増加してきた。これらの移住者の増加は、在留中国系移民集団内の構成員の出身地や学歴、職業などの多様化をもたらした。これらの中国系移民の中では、組織の活動への参加とエスニック・ネットワークの構築に積極的ではない人もいるが、彼らは多様な人的資本と社会関係資本を持っていたためにエスニック・ネットワークへの依存度が低かったのである。アイスランドの中国系移民は主に首都圏に居住しているが、彼らの居住形態は分散型である。それは、中国系移民にはホスト社会からの差別や抑圧などの外部環境からの圧力がなく、また彼らはそれぞれ異なる職業に従事して自らの生活を営むことができたため、集住する必要性が低かったからである。そのため、住宅による近隣性は中国系移民のネットワークの形成に大きな影響を与えていなかったと言える。また中国系移民の就労状況を見ると、2010 年代まではホスト社会の労働市場に従事しているため、彼らの間に経済活動による相互作用は見られなかった。しかし、2010 年代に Wechat のグループチャットの使用が始まってから、より多くの中国系移民が一つのチャットグループに参加するようになり、日常生活での交流と情報の提供を通じて移民同士の「潜在的」繋がりが強くなった。

第三章では、中国からの観光客の増加がどのようにアイスランドの中国系移民に新たな経

済活動をもたらしたのかを分析した。また、その新たな経済活動に応じて中国系移民がどのように協力してこの産業に従事し、コミュニティを発展させたのかを明らかにした。近年、アイスランドを訪問する中国人観光客の増加によって中国とアイスランドの社会的・人的な交流が次第に増え、アイスランド社会からの中国人観光客と中国の観光市場への関心が高まってきた。中国人観光客の人数はアイスランドを訪問する全観光客の中で第3位であり、著しい増加を見せている。このような中国人観光客の増加によって彼ら向けのサービス業で大量の需要が生じたが、中国系移民はいち早くその需要に気づき、観光業に活躍するようになった。その新しい事業に関わるようになった中国系移民は、大きく三つのタイプに分けられる。一つ目のタイプは「市場連結者」である中国系移民の起業家であり、彼らはホスト社会の観光市場の活性化と多様化を促した。二つ目のタイプは「市場開拓者」の中国系移民である。彼らは観光関連の会社に勤務し、文化的背景を活かしてアイスランドの企業に中国市場という異質な文化を理解させるように努めていた。三つ目のタイプは「問題解決者」の中国系移民のツアーガイドである。彼らは中国人観光客がアイスランドでよい旅行経験を得られるように様々なところで旅行中の問題を解決するのに役立っている。このように、中国人観光客向けの観光市場において中国系移民は多様な役割を果たしていると言えるのである。アイスランドにおける中国系移民コミュニティの特徴は、多様な中国系移民が観光業での活躍のような共同活動を通じて多様なネットワークを構築してより強い連帯関係を結び、それが新たな事業の展開に影響を与え、最終的にコミュニティを大きく変えることにある。

終章では、各章の小結論を総括し、結論として以下の主要な二点にまとめている。第一には、アイスランドにおける中国系移民は人数が少なく人間関係を構築する選択肢が限られているため、中国の経済成長によって生じた観光市場での新たな経済活動の影響を受けて、新たな協力関係を結び、ネットワークを再編成してエスニックな連帯を強化し、コミュニティを変化させたとと言える。

第二には、中国系移民は、中国人観光客向けの観光市場において、エスニックな連帯の強化により集団内の「人的資本」を動員し、協力関係による「市場秩序」を形成し、中国とアイスランドの観光市場を連結させる重要な役割を果たしていると言える。